

2 0 2 5 年 度

学校法人ホスピタリティ学園

事業報告書

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

○学園理念

世界観を持ち、おもいやりのある人財を育む

私たちは、思いやり溢れる笑顔と温かな対応を大切にします。励まし合い、
支え合いながら成長する教育環境を築くことで豊かな心を育み、業界との
信頼関係構築と発展に貢献します。

○教育目標

1. 相手の立場に立って考え行動できるホスピタリティ教育

「相手の立場に立って考え行動できる」資質、能力を、学校生活全般、
講義、演習、実習、研修旅行、各種行事を通じて身に付ける。

2. 職業現場で活躍できる職業実務実践教育

職業現場で活躍できる能力、健全な職業観、専門知識及び技能を、
企業等との連携を通して習得する。

3. 生涯にわたって、教養を高めて、自己啓発ができる動機づけ教育

時代、環境の変化に適応し雇用され続けるために、生涯にわたり自ら
学ぶ姿勢を習得する。

4. 地域社会、国際社会で役割を果たせるグローバルな教育

環境や価値観の異なる人たちと相互理解にいたる能力を身につけ、
ホスピタリティ産業全体の発展に貢献できる人材となる。

(2) 学校法人の沿革

1973 年 トラベルジャーナル旅行学院開校

1975 年 (一社)日本旅行業協会(JATA)推薦校となる

1977 年 (一社)全国旅行業協会(ANTA)推薦校となる

1980 年 東京都より学校法人、専修学校として認可され、
 トラベルジャーナル旅行専門学校と校名を改める

1981年 大阪トラベルジャーナル旅行学院開校
 太平洋アジア観光協会(PATA)日本支部推薦校となる

1986 年 大阪府より専修学校として認可され、
 大阪トラベルジャーナル旅行専門学校と校名を改める
 アメリカにシアトル校開校

1990年 夜間部旅行本科開設

1991年 (一社)日本海外ツアーオペレーター協会(OTOA)推薦校となる
 海外ホテル協会(OHEA)推薦校となる

1992 年 オーストラリアにメルボルン校開校

1994 年 大阪校、トラジャル旅行ホテル専門学校に校名変更

2001 年 東京日本語文化学校開校
 (公社)日本ブライダル文化振興協会(BIA)推薦校となる

2002 年 (一社)日本添乗サービス協会(TCSA)推薦校となる

2007年 学校法人トラベルジャーナル学園に法人名変更
ホスピタリティ ツーリズム専門学校に校名変更
ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪に校名変更

2011年 大阪ブライダル専門学校開校

2012年 オーストラリアのメルボルン校閉校

2013年 東京ブライダル専門学校開校
東京日本語文化学校閉校

2018年 大阪ホテル専門学校開校
大阪テーマパーク・ダンス専門学校開校

2019年 台湾・台北校開校

2024年 エアライン・鉄道・ホテル・テーマパーク専門学校東京に校名変更
大阪鉄道・観光専門学校に校名変更
大阪外国語・ホテル・エアライン専門学校に校名変更
台湾・台北校閉校

2026年 大阪鉄道専門学校に校名変更

(3) 学校・学科(昼間部)等の学生数の状況(2025年4月現在) 単位:人

学校名・学科名		入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
エアライン・鉄道・ホテル・ テーマパーク専門学校 東京	旅行科	—	40	1年 — 2年 11 小計 11	※1
	ホテル科	50	110	1年 46 2年 52 小計 98	
	テーマパーク科	60	120	1年 57 2年 44 小計 101	
	総合英語科	—	20	1年 — 2年 16 小計 16	※1
	エアライン科	80	160	1年 73 2年 51 小計 124	
	鉄道科	60	100	1年 44 2年 36 小計 80	
	クルーズ科	20	20	1年 11 2年 — 小計 11	※2

東京ブライダル 専門学校	ブライダル科	120	240	1 年 137 2 年 108 小計 245	
東京校 小計		390	810	1 年 368 2 年 318 小計 686	
大阪鉄道・観光 専門学校	鉄道・観光学科	70	140	1 年 70 2 年 57 小計 127	※3
大阪ブライダル 専門学校	ブライダル学科	140	280	1 年 122 2 年 87 小計 209	
大阪外国語・ホテル・ エアライン専門学校	ホテル・エアライン学科	120	240	1 年 103 2 年 110 小計 213	
	外国語学科	60	120	1 年 20 2 年 13 小計 33	
大阪テーマパーク・ダンス 専門学校	テーマパーク学科	100	200	1 年 108 2 年 90 小計 198	
大阪校 小計		490	980	1 年 423 2 年 357 小計 780	
アメリカ留学中	東京校	—	—	13	
	大阪校	—	—	11	
合 計				1 年 791 2 年 675 留学中 24 合計 1,490	

※1. 1 年生の募集を停止した学科

※2. 1 年生の募集を開始した学科

※3. 鉄道・観光学科のうち、観光科のみ 1 年生の募集を停止

(4) 施設等の状況

①主な施設設備の状況は次のとおりである。

【校地】

施設等	所在地	面積	帳簿価額	備考
東京校A館敷地	東京都中野区東中野 3-18-11	871.00 m ²	2,219,981,250 円	
東京校B館敷地	東京都中野区東中野 3-17-11	293.64 m ²	993,729,750 円	
大阪校1号館敷地	大阪府大阪市西区江戸堀 2-6-29	569.73 m ²	1,432,553,000 円	
大阪校2号館敷地	大阪府大阪市西区江戸堀 2-1-24	397.65 m ²	1,434,105,000 円	
大阪校3号館敷地	大阪府大阪市西区江戸堀 2-1-25	463.07 m ²	262,049,529 円	
湯河原敷地	静岡県熱海市泉元門川分 88-3-417	56.65 m ²	4,158,256 円	
御殿場敷地	静岡県御殿場市東田中 1512	7,175.80 m ²	264,660,681 円	
合計		9,827.54 m ²	6,611,237,466 円	

【校舎】

施設等	面積	帳簿価額	備考
東京校A館	3,994.75 m ²	1,186,921,897 円	
東京校B館	1,149.58 m ²	395,668,050 円	
大阪校1号館	3,063.63 m ²	871,839,181 円	
大阪校2号館	2,520.04 m ²	423,220,345 円	
大阪校3号館	2,894.79 m ²	428,781,268 円	
湯河原	76.76 m ²	24,210,189 円	
御殿場	3,599.72 m ²	752,139,892 円	
構築物		144,369,135 円	
合計	17,299.27 m ²	4,227,149,957 円	

【収益事業用土地】

施設等	所在地	面積	帳簿価額	備考
ドミール City 東中野	東京都中野区東中野 4-6-6	229.00 m ²	92,854,868 円	
ドミール City 東中野Ⅱ	東京都中野区東中野 3-13-11	416.53 m ²	669,602,362 円	
コーケン関内ビル跡地	神奈川県横浜市中区南仲通 1-5-1	403.56 m ²	335,450,000 円	
合計		1,049.09 m ²	1,097,907,230 円	

【収益事業用建物】

施設等	所在地	面積	帳簿価額	備考
ドミール City 東中野	東京都中野区東中野 4-6-6	1,127.06 m ²	125,055,922 円	
ドミール City 東中野Ⅱ	東京都中野区東中野 3-13-11	1,726.26 m ²	626,211,590 円	
構築物			856,141 円	
合計		2,853.32 m ²	752,123,653 円	

2. 事業の概要

～東京～

(1) 教育の実績

【エアライン・鉄道・ホテル・テーマパーク専門学校東京】

訪日外国人観光客の増加や国際的な職場環境への対応を目的として、1ヶ月間の国内留学プログラムをはじめ、各業界に特化した「業界英会話」、全学科の学生が自由に参加できる「アフタースクール」における英会話・TOEIC対策、さらに一部学科では毎日30分のオンライン英会話を実施し、リスニング・スピーキング力の向上に取り組んでいます。

また、共通科目として全学科において「ホスピタリティ研究」を実施し、ホスピタリティに不可欠な5つの力を業界の実践事例とともに、単なるサービス提供にとどまらず「相手の心に残る存在」となることを目標に掲げています。授業内外で、急速に進化するAI時代においても揺るがない、人ならではのホスピタリティ教育の充実に力を入れています。

[企業との連携や課外活動等]

全学科の学生が企業実習に参加し、実務経験を積む機会を設けています。実習を通じて、学内では得られない現場の緊張感や達成感、社会人としての人間関係の在り方、そして自己の課題を客観的に認識する機会となっており、学生の職業意識の醸成に大きく寄与しています。

また、各学科においては連携企業のご協力のもと、現場訪問・特別講演・産学連携イベント等を積極的に実施し、業界の最新動向および実践的な知見の習得に努めています。

<旅行科>

11月には、学生のアイデアを起点として企画・立案した旅行商品を、株式会社小田急トラベルの主催のもと、一般のお客様を対象とした群馬県みなかみ町への実施ツアーとして実現しました。本取り組みを通じて、学生は旅行業務の実際に触れるとともに、職業観の醸成および将来のキャリア選択における具体的な指針を得る貴重な機会となりました。

<ホテル科>

1年次の学生全員を対象に、夏季および冬季休暇期間中にホテル企業における現場実習を実施しました。実習を通じて職業観の醸成と企業理解の深化を図るとともに、就職活動に向けた実践的な基盤の構築に努めました。また、1年次後期の専門科目「ワークセッション」においては、13社のホテル企業よりご登壇いただき、実践的な事例研究授業を展開しました。さらに、12月に実施した公開授業には16社21名の企業関係者をお迎えし、学生が会社説明会にとどまらず、企業への理解を深める貴重な機会となりました。

<テーマパーク科>

2年次の学生全員が成果発表の集大成として、株式会社花やしきの産学連携のもと、

1年間にわたりイベントの企画提案・準備・当日運営（2日間）を一貫して担いました。当日は多くの来園者の皆様にご参加いただき、学生にとってイベント運営の実務を総合的に経験する貴重な機会となりました。

また、1年次全員を対象に、夏季休暇期間および後期において、計23社の企業にて企業実習を実施しました。複数企業での実習を通じて、各社の業務内容や顧客層の違いを実践的に学ぶとともに、就職活動における企業選択の具体的な指針を得る機会となりました。

<エアライン科>

株式会社 JAL スカイの事業所および ANA ブルーベースを訪問し、通常はお客様の目に触れることのない業務現場を見学する機会を得ました。現場視察を通じて、目指す業界への理解をより一層深めることができました。

また、1年次の学生を対象に、12月には成果発表の場としてホスピタリティスキルコンテストを実施しました。本コンテストは、グランドスタッフおよび客室乗務員としての対応力を競うものであり、航空会社の人事・訓練部門の担当者8社10名に審査員としてご参加いただきました。業界の第一線で活躍する専門家による客観的な評価を賜り、学生にとって自身のスキルと課題を見極める貴重な機会となりました。

<総合英語科>

2年次の学生を対象に、成果発表の場として英語スピーチコンテストを実施しました。海外クルーズ会社より審査員をお招きし、学生が日頃の英語学習の成果を存分に発揮しました。業界の実務に精通した審査員の方々より高い評価を賜り、学生の語学力向上への取り組みを対外的に示す貴重な機会となりました。

<クルーズ科>

商船三井クルーズ株式会社、郵船クルーズ株式会社、キュナード・ライン社のご協力のもと、業界人による講話を計3回実施しました。業界の第一線で活躍する専門家から直接知見を得る機会として、学生の業界理解の深化に大きく寄与しました。

また、課外活動として、7月にMSC ベリッシマ、8月にはにっぽん丸、10月にはクイーンエリザベスへの乗船見学を実施しました。実際の客船に乗船し、各船の設備の特徴を体感するとともに、船上クルーとしての職業意識および安全への意識を高める貴重な機会となりました。

<鉄道科>

鉄道会社14社のご協力のもと、朝の通勤時間帯における駅務補助を行う「駅実習」を全学生必修のプログラムとして実施しました。

また、6月には東日本旅客鉄道株式会社総合研修センターのご協力のもと、鉄道安全体験研修を実施しました。これらの実習を通じて、学生の安全に対する意識の醸成を図るとともに、職業意識の向上に努めました。

【東京ブライダル専門学校】

エアライン・鉄道・ホテル・テーマパーク専門学校東京と同様に、業界に特化した「業界英会話」、全学科の学生が自由に参加できる「アフタースクール」にて英会話やTOEIC対策を実施し、リスニング・スピーキング力を強化しています。

また、共通科目として全学科において「ホスピタリティ研究」を実施しています。本科目では、ホスピタリティに不可欠な5つの力を業界の実践事例とともに、単なるサービス提供にとどまらず「相手の心に残る存在」となることを目標に掲げています。急速に進化するAI時代においても揺るがない、人ならではのホスピタリティ教育の充実に力を入れています。

さらに、2年間を通じて計4回の成果発表の機会を設け、課題解決力・人間力・コーディネートスキルの体系的な習得を目指しています。

[企業との連携や課外活動等]

全学生が企業実習に参加し、実務経験を積む機会を設けています。実習を通じて、学内では得られない現場の緊張感や達成感、社会人としての人間関係の在り方、そして自己の課題を客観的に認識する機会となっており、学生の職業意識の醸成に大きく寄与しています。

また、連携企業のご協力のもと、現場訪問・特別講演・特別授業等を実施し、業界の最新動向および実践的な知見の習得に努めています。

- ① 企業実習の開始に先立ち、業務理解の促進を目的とした企業実習説明会を開催しました。説明会では学生が企業担当者に対して直接質疑を行う機会を設け、有意義な相互理解の機会となりました。
- ② 7月に14社8名の企業人事担当者をお招きし、人財活用セミナーを実施しました。事前に各企業が直面する課題をヒアリングしたうえで、企業の枠を超えた混成グループによる意見交換を行いました。本セミナーを通じて、課題の明確化および専門学校として取り組むべき教育内容の方向性を見出すことができました。
- ③ 株式会社テイクアンドギヴ・ニーズと連携し、第一線で活躍する社員を講師としてお招きし、7月から11月にかけて、全7回の放課後特別授業を実施しました。現場の実態や結婚式の魅力、実践的な指導を直接受けることで、各職種についての学生の業界理解を着実に深めることができました。
- ④ 成果発表として、「模擬人前挙式（1年次）」「バーチャルウェディング（1年次）」「ブライダル発表会（2年次）」を実施しました。

各発表において、学生は企画立案から役割分担・進行管理に至る運営スキルを実践的に習得するとともに、チームで一つの目標に向けて取り組む過程を通じて、協働することの意義と難しさを体感しました。

また、「リアルウェディング（2年次）」においては、実際の新郎・新婦様を対象とした結婚식을3組執り行いました。本取り組みを通じて、現場で生じる課題への対応力や問題解決力を身につけ、実務レベルでのブライダル運営を担う貴重な機会となりました。

(2) 主な資格の取得実績 (2校合計)

資格名称	取得者数
TOEIC 900 点以上	1 名
TOEIC 800 点以上	5 名
TOEIC 700 点以上	10 名
TOEIC 600 点以上	13 名
TOEIC 500 点以上	15 名
全国手話検定 3 級	36 名
全国手話検定 4 級	84 名
サービス介助士	102 名
ホテルビジネス実務検定ベーシック 2 級	29 名
レストランサービス技能検定 3 級	11 名
ブライダルコーディネーター技能検定 3 級	111 名
色彩活用パーソナルカラー検定 3 級	86 名

(3) 奨学金の実績 (2校合計)

【2025 年度入学者に対する奨学金】

① 特待生制度 17 名

筆記試験とグループ面接の結果に応じて支給される奨学金制度

② 指定校推薦入学選考 42 名

指定高校からの推薦入学生に対する奨学金

③ AO入学選考 269 名

同選考を受験した入学生に対する奨学金

④ AO選拔生制度 9 名

AO合格者がプレゼンテーションの結果で支給される奨学金制度

⑤ 英語資格取得奨学金制度 39 名

英語の資格取得に応じて支給される奨学金制度

⑥ 家族推薦奨学金 20 名

入学生の家族が、本校の在校生・卒業生の場合に適用される奨学金

【アメリカ留学制度生に対する奨学金】

長期留学制度奨学金 13 名

1 年次の出席率等、一定の条件をクリアした留学制度生に対して留学中に適用される奨学金

【外国人留学生に対する奨学金】

日本語資格取得奨学金：1 年生 1 名

(4) 就職の実績

厳選採用の傾向が続く就職市場に対応すべく、早期段階からの保護者説明会をはじめ、就職セミナーおよびアフタースクール（授業外自由参加型勉強会）を実施しました。

また、オンラインを活用した学内企業説明会や WEB 面接対策を積極的に取り入れるとともに、学生一人ひとりの特性や課題に応じた個別指導の充実に努め、きめ細やかなキャリア支援体制の強化を図りました。

	エアライン・鉄道・ホテル・ テーマパーク専門学校東京	東京ブライダル 専門学校
就職希望者数	194 名	102 名
就職決定者数	190 名	102 名
内 関連業界就職者	176 名	101 名
その他業界就職者	14 名	1 名

(5) 学生募集（2026 年度生）

	学 科	入学定員	入学生	充足率
エアライン・鉄道・ホテル・ テーマパーク専門学校東京	エアライン科	100 名	113 名	113%
	鉄道科	60 名	43 名	71.6%
	ホテル科	80 名	56 名	70.0%
	テーマパーク科	80 名	51 名	63.7%
	クルーズ科	20 名	14 名	70.0%
	小 計	340 名	277 名	81.4%
東京ブライダル専門学校	ブライダル科	120 名	124 名	103.3%
	合 計	460 名	401 名	87.1%

(6) その他

- ① 自己点検・自己評価の実施により、「私立専修学校教育環境整備費補助金（専修学校評価促進）」として、400 千円（1 校 200 千円）を受給することができました。
- ② 職業教育の質の向上を図り、多くの専門人材を育成する教育の推進を目的とした「私立専修学校職業実践専門課程推進補助金」として、3,270 千円を受給することができました。（エアライン・鉄道・ホテル・テーマパーク専門学校東京 旅行科/ホテル科/エアライン科/テーマパーク科/鉄道科、東京ブライダル専門学校 ブライダル科）
- ③ ブライダル企業大手のアニヴェルセル株式会社主催の「サービス・コンシェルズスキルズカップ」において、全国 10 店舗の中から選抜されたスタッフとして本校学生 2 名が参加し、全国上位 3 位に入賞しました。（東京ブライダル専門学校）

～大阪～

(1) 教育の実績

【大阪鉄道・観光専門学校】

鉄道・観光業界が変革を続ける中で求められる資質や能力を育むために、専門的な職業教育と人間性の成長を目的としたカリキュラムを展開しました。職業観の形成と人間力の向上を目指し、実践的な学びを重視しました。具体的には、企業連携による産学協同プログラムや業界人講演、企業研修を全課程に組み込み、現場で役立つスキルの習得を図りました。

[企業との連携や課外活動等]

<鉄道科>

- ① 西日本旅客鉄道株式会社社員研修センターのご協力のもと、鉄道業界に関する安全研修を実施しました。研修では、社員の方より鉄道業界における安全管理の重要性や、鉄道係員が担う社会的責任について学ぶとともに、「安全とは何か」を改めて考える機会となりました。座学に加えて現場に即した研修内容を通じて、事故防止に向けた細やかな配慮や緊急時の対応マニュアル、安全確認の徹底など、日常業務に潜むリスクとその管理方法について理解を深めました。
- ② 阪急電鉄株式会社および西日本旅客鉄道株式会社のご協力のもと、鉄道業界の技術職を目指す学生を対象に、説明会及び現地見学会を実施しました。説明会では会社概要や技術職の仕事概要についての説明を受け、現地見学会では具体的な業務の様子を見学しました。通常は見ることでできない技術職の現場に触れることができ、就職活動に向けて大いに参考となる機会となりました。

<観光科>

- ① 株式会社エヌ・オー・イーとの産学連携により、東西校合同の「海外プランニングコンテスト」を実施し、プロジェクト型教育（PBL）を中心とした授業を展開しました。企業による講演や、最終発表におけるプロフェッショナルな視点からのフィードバックを通じて、学生は業界に即した思考力や企画力を養いました。
- ② バリューマネジメント株式会社との連携では、東西合同授業において愛媛県大洲市を題材とし、地域創生をテーマに街づくりの企画・提案に取り組みました。講演や中間・最終発表には企業にもご参加いただき、実際の地域課題に向き合う中で、学生は課題発見力と解決力を実践的に身につける貴重な体験となりました。

【大阪ブライダル専門学校】

企業の協力を得た産学連携プログラムによる職業教育と、人間力を育む教育を柱としたカリキュラムを提供しました。職業教育では、ブライダル業界に求められる幅広い知識を習得できるよう、総合学科としての視点から多角的なカリキュラムを編成しました。

さらに、プロジェクト型教育を軸とし、複数科目を連動させることで、学びの集大成として成果発表へと結びつけました。こうした学びのプロセスを通じて、学生一人ひとりの主体性と協働性を育む指導を行いました。

[企業との連携や課外活動等]

- ① 大阪・関西万博において、修成建設専門学校・大阪調理製菓専門学校と3校協同で万博会場内のステージイベントを実施しました。大阪府人権局からの依頼を受け、公募で集まった本物のカップルによる挙式を執り行い、フォーシス&カンパニーから協賛いただいた衣装のもと、日本の心と結婚文化を世界へ向けて発信しました。異なる専門学校が連携することで、学生にとって実社会スケールの貴重な実践経験となりました。
 - ② 成果発表「バーチャルウエディング」では、飲食を伴う本格的な披露宴形式での実施により、よりリアルな現場体験を追求しました。株式会社テイクアンドグヴ・ニーズ、IKKホールディングスをはじめとする19社25名の業界関係者にご参加いただき、昨年を上回る規模での産学連携を実現しました。現場のプロからの直接的なフィードバックを通じて、学生の実践力と職業意識の向上につながりました。
 - ③ 「ブライダル発表会」では、新規カップルを対象としたブライダルフェアを開催しました。学生主体でSNSマーケティングから企画・運営までを一貫して手がけ、1日19組のお客様にご来場いただくことに成功しました。結婚式の魅力を伝える接客を通じて満足度の高いフェアを実現し、接客対応力のさらなる向上につながりました。
- またウエディングフォトでは、PICNIKOによる撮影講座とフォトコンテストを実施し、昨年を上回るクオリティの作品制作を通じて、学生の表現力と技術力の成長を促しました。

【大阪外国語・ホテル・エアライン専門学校】

ホスピタリティマインドを教育の根幹に据え、業界で求められるコミュニケーション能力や課題発見・解決能力といった基礎的な力の向上を目的に、ホスピタリティ科目および産学連携科目において、アクティブラーニングを活用したプロジェクト型教育を実施しました。さらに、企業と連携した長期間の現場実習を通じて、実践的な職業観の育成に取り組みました。

[企業との連携や課外活動等]

<ホテル科>

- ① ダブルツリーby ヒルトン大阪城と連携し、ホテル側から提示されたテーマに対して、学生が企画立案からプレゼンテーションまでを行いました。「大阪・関西万博後の集客強化」や「ダブルツリーの知名度向上」など、ホテルが実際に課題としているテーマに対し、学生ならではの斬新な発想と工夫を凝らしたプレゼンテーションが高く評価されました。
- ② ホテルワークセッションの授業では、複数の企業と連携し、実践的な対応力や発想力を養いました。ROKU KYOTO LXR ホテルズとの授業では、著名人でもあるヘッドコンシェルジュから、ゲストのあらゆる要望に応えるための細やかな「おもてなしの心」の真髓を学びました。

また、ウェスティンルスツリゾートホテルとの授業では、現場で働くスタッフの視点から「リゾートホテルとシティホテルの違い」について学び、理想のリゾートホテルをテーマに企画立案およびプレゼンテーションを行いました。

- ③ レストランプロデュースを学ぶ授業では、ANA クラウンプラザホテル千歳の副総料理長をはじめ、4名の料理長に全面的なご協力をいただき、レストランを一から作り上げる実践型の授業を展開しました。メニュー作成からサービス、調理に至るまで、料理長から直接ご指導を受け、料理だけでなく、お客様をもてなす心や現場で求められる対応力について学びました。
- ④ シェラトン都ホテル大阪と連携した「ホテルマナー研修」では、ベッドメイキング講習、業界人による講演、施設見学、宴会実務、テーブルマナー講習などの研修を通じて、ホテル業界に求められる基礎知識と実践力を身につけました。お客様とスタッフの双方の立場からホテルの仕事を捉え、現場で必要とされる心構えや対応力について幅広く学びました。

<エアライン科>

「スキルコンテスト」では、ANA 大阪空港株式会社、株式会社 JAL スカイ大阪、株式会社ジェイエア、Peach Aviation 株式会社の4社にご協力いただき、大阪校本選の審査員を務めていただきました。学生が現場での実践的な動きを具体化させるとともに、業界の第一線で活躍する方々からのフィードバックを通じて、学生自身の考察を深める貴重な機会となりました。

また、ANA 大阪空港株式会社および CKTS 株式会社による空港見学では、他部署と連携して働く仕組みや具体的な業務内容を直接目にすることで、航空業界への理解をより一層深めました。

<英語科>

英語科では、資格取得に偏重することなく、実践的な英会話能力の育成を主眼としたカリキュラムを実施しました。インバウンド需要の拡大を踏まえ、大阪城や周辺地域の歴史に関する理解を深めるとともに、英語が母語話者でない観光客も想定した観光案内ツアーの企画・運営に取り組みました。実際にゲストを招いたツアーを実施することで、教室で修得した知識・技能を実地において活用する機会を提供し、実践的運用力の向上を図りました。

<韓国語科>

- ① 企業実習では、韓国人宿泊客が約8割を占める北海道・ルスツリゾートホテルと連携し、同ホテルと本学で共同作成したテキストをもとに事前教育を実施しました。事前に学んだ内容を実際の業務に応用することで、実践力を養いました。
- ② 韓国文化を学ぶ授業においては、韓国の伝統料理の調理実習を通じて食文化への理解を深めるとともに、歴史的背景や人権課題についても学修を行い、語学教育にとどまらない多角的な視点の養成に努めました。さらに、博物館や資料館等を訪問し、韓国文化のみならず世界の民族文化についても韓国語を用いて理解を深める機会を設け、言語運用力と異文化理解力の向上を図りました。

【大阪テーマパーク・ダンス専門学校】

テーマパークスタッフ科では、学生の主体性とオーナーシップマインドの醸成を目的に、グループワークやディベートを重視したカリキュラムを提供しました。あわせて、豊かな表情や、感情表現の手法を体得することを目的に、表現力を育む授業を展開しました。

ダンス・エンターテイナー科では、人前でのパフォーマンス機会を増やし、学生自身が課題を見つけて改善に取り組むことにより、心・技・体の向上へつなげました。

[企業との連携や課外活動等]

＜テーマパークスタッフ科＞

- ① 鈴鹿サーキット、レゴランドジャパン、志摩グリーンアドベンチャー、ネスタリゾート神戸の施設見学会を実施し、人事担当者や卒業生による会社説明会を開催しました。先輩からの体験談を通じて、テーマパークで働く意義や、業務理解をより深める機会となりました。
- ② ホンダモビリティランド株式会社をはじめ、計 8 社 20 名の企業関係者を学内に招き、テーマパークにおけるホスピタリティを体現するスキルコンテストを開催しました。日頃の授業で培った表現力を活かし、心のこもったサービスを披露し、高く評価されました。
- ③ イオンモール茨木内のステージをお借りして、卒業制作の発表を実施しました。学生が考案した子ども向けのイベントを開催し、演劇を披露するなどして多くの来場者を迎え、企業からも高い評価を得ました。

＜ダンス・エンターテイナー科＞

- ① 大阪・関西万博「電力館」野外ステージにて、電気事業連合会および上田安子服飾専門学校との連携のもと、「可能性のタマゴ」をテーマとした「オリジナルダンスショー」を公演しました。国内外から来場されたお客様の前でパフォーマンスを披露したことは、エンターテイナーとしての実践力を高めるとともに、学生にとって貴重な成長機会となりました。
- ② 鈴鹿サーキットとの連携により、「夏の特別花火ショー」に 5 日間、「冬の Birthday ショー」に 2 日間、同施設エンターテイナーとして出演しました。プロと同じステージに立ち、観客の前でパフォーマンスを経験することで、表現する喜びと難しさを体感し、成長の糧となる有意義な経験となりました。
- ③ ひらかたパーク、上田安子服飾専門学校、日本写真映像専門学校との連携のもと、園内ステージにて「オリジナルダンスエンターテイメントショー」を実施しました。一般来場者 350 人以上に鑑賞いただき、観客および企業から高く評価されました。学生にとって達成感を得るとともに、今後の課題を発見する有意義な課外活動となりました。
- ④ 神戸まつり「おまつりパレード」に参加しました。パレード作品を学生自身が創作し、出演したことはテーマパーク業界を目指す学生にとって大きな学びとなりました。

(2) 主な資格の取得実績 (4 校合計)

資格名称	取得者数
TOEIC 900 点以上	2 名
TOEIC 800 点以上	1 名
TOEIC 700 点以上	7 名
TOEIC 600 点以上	12 名
TOEIC 500 点以上	17 名
全国手話検定 3 級	32 名
全国手話検定 4 級	43 名
サービス介助士	103 名
ホテルビジネス実務検定ベーシック 2 級	47 名
レストランサービス技能検定 3 級	39 名
ブライダルコーディネーター技能検定 3 級	103 名

(3) 奨学金の実績 (4 校合計)

【2025 年度入学者に対する奨学金】

① 特待生制度 37 名

筆記試験の結果に応じて支給される奨学金

② 指定校推薦入学選考 15 名

指定高校からの推薦入学生に対する奨学金

③ AO入学選考 353 名

同選考を受験した入学生に対する奨学金

④ AOチャレンジ奨学金制度 19 名

同選抜において優秀なプレゼンテーションを行った入学生に対する奨学金

⑤ 英語資格取得奨学金制度 43 名

英語の資格取得に応じて支給される奨学金

⑥ 家族推薦奨学金 11 名

入学生の家族が、本校の在校生・卒業生の場合に適用される奨学金

【アメリカ留学制度生に対する奨学金】

長期留学制度奨学金 11 名

1 年次の出席率等、一定の条件をクリアした留学制度生に対して留学中に適用される奨学金

【外国人留学生に対する奨学金】

日本語資格取得奨学金：2 年生 3 名

(4) 就職の実績

	大阪 鉄道・観光 専門学校	大阪 ブライダル 専門学校	大阪外国語・ ホテル・エアライン 専門学校	大阪テーマ パーク・ダンス 専門学校
就職希望者数	56 名	87 名	85 名	90 名
就職決定者数	53 名	86 名	84 名	87 名
内 関連業界就職者	51 名	78 名	77 名	74 名
その他業界就職者	2 名	8 名	7 名	13 名

(5) 学生募集 (2026 年度生)

	学 科	入学定員	入学生	充足率
大阪鉄道専門学校	鉄道学科	70 名	62 名	88.6%
大阪ブライダル 専門学校	ブライダル学科	140 名	70 名	50.0%
大阪外国語・ホテル ・エアライン専門学校	ホテル・エアライン学科 外国語学科	120 名 40 名	114 名 15 名	95.0% 37.5%
大阪テーマパーク ・ダンス専門学校	テーマパーク学科	120 名	115 名	95.8%
	合計	490 名	376 名	76.7%

(6) その他

- ① 厚生労働省後援の第 20 回「HRS サービスコンクール 2026 (カレッジ部門)」に本校から 2 名が出場し、銀賞 (全国第 2 位) および敢闘賞 (全国第 4 位) を受賞しました。(大阪外国語・ホテル・エアライン専門学校)
- ② ホテルビジネス実務検定において、全国受験者 1,637 名の中から全国第 1 位 1 名、第 2 位 2 名、第 5 位 1 名と、ベスト 10 に 4 名が入る成績を収めました。
また、学校全体としても合格率 95%という高い成果を上げ、3 年連続で優秀指導校として表彰されました。(大阪外国語・ホテル・エアライン専門学校)

3. その他の主な事業

1) 国内留学制度

グローバル化の推進にあたり、接客やトラブル対応における英語コミュニケーションの重要性を踏まえ、1年生約750名を対象に、1か月間英会話に特化した国内留学制度「御殿場イングリッシュキャンプ」を、2024年度入学生より導入しました。

英語を使用する環境に身を置き、外国人講師や参加者同士の英語によるコミュニケーションを通じて、「英語を使うこと」への抵抗感を軽減し、学習習慣の形成や効果的な学習方法を身につけることを目的としています。

また、異なるバックグラウンドや生活スタイルを持つ学生との共同生活を通じて、多様性への理解を深めるとともに、柔軟な対応力の育成を図っています。

実施期間	東京校	大阪校
5/12～6/6	エアライン科	エアライン科 英語科
6/9～7/4	ホテル科 クルーズ科	ホテル科
7/7～8/1	ブライダル科①	ブライダル科①
8/4～8/29	ブライダル科②	ブライダル科②
9/1～9/26	ブライダル科③	ブライダル科③
9/29～10/24		テーマパークスタッフ科
10/27～11/21		鉄道科 韓国語科 ダンス・エンターテイナー科
11/24～12/19	テーマパーク科 鉄道科	

2) 海外長期留学制度

「長期留学制度奨学金」61.8万円の利用で年間学費98万円にて、アメリカ（シアトル）へ1年間長期留学できる制度を導入しています。この長期留学により、語学力（英語）・国際感覚の優れた学生を当学園からより多く輩出することを目指しています。

＜アメリカ長期留学制度＞

2025年度はアメリカ（シアトル）にある提携校を受入先として、24名の学生を送り出しました。

【留学から帰国した学生のTOEIC結果】

	東京	大阪	全体
TOEIC 平均点	557 点	581 点	568 点
渡航前の平均点	402 点	362 点	384 点
平均上昇点	155 点	219 点	184 点
最高得点	855 点	715 点	855 点
最高上昇点	220 点	330 点	330 点

3) 職業実践専門課程

エアライン・鉄道・ホテル・テーマパーク専門学校東京

観光科/ホテル科/テーマパーク科/エアライン科

東京ブライダル専門学校 ブライダル科

大阪鉄道・観光専門学校 鉄道・観光学科

大阪ブライダル専門学校 ブライダル学科

4校は、「職業実践専門課程」に認定されており、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会を通じて外部の業界専門家の意見も参考にしながら教育内容の見直しと充実化に努めました。

※職業実践専門課程とは、専修学校専門課程であって、職業に必要な実践的、かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを文部科学大臣が認定して推奨するものです。

4) 修学支援

文部科学省の「高等教育の修学支援新制度（通称：高等教育無償化制度）」の対象校として、本学園が設置する全学校（東京校2校、大阪校4校）が認定されており、東京校144名（授業料減免額77,373,900円）、大阪校230名（授業料減免額117,039,000円）に修学支援を行いました。

5) 外部カウンセラーの導入

近年では、従来の進路や交友関係に関する悩みに加え、各種ハラスメント、ジェンダーの問題、精神障害や発達障害など、さまざまな課題が聞かれるようになり、より複雑なケースの発生が懸念されています。

学習障害等が疑われる学生や、メンタル面を起因とした体調不良、精神疾患を発症している学生に対しては、教職員のみならず、専門知識を有するプロフェッショナルによる対応が必要であると考えています。このため、公認心理師や臨床心理士などの外部カウンセラーを東西校に導入し、校内において定期的にカウンセリングデーを設けています。

6) 改正学校教育法への対応

2026年4月1日に施行された改正学校教育法により、専門学校は高等教育機関としての位置づけが明確化されました。大学等との制度的整合性を高めるため、入学資格の厳格化や単位制への完全移行などの措置が求められることから、設置校における学則内容を改訂し、所轄庁へ届け出を行いました。

また、今後は教育の質の保証を図るため、自己点検・評価の義務化、第三者評価の実施、教職員研修体制の整備などが必要となるため、順次対応していきます。

7) 法人名の変更（2027年4月1日変更予定）

本学園の設立母体の社名であり、観光・サービス業界において広く認知されている

「トラベルジャーナル」は、旧校名にも使用されており、高校関係者の間では長年「トラジャル」の通称で親しまれてきました。この「トラジャル」と、当学園の基本理念である「ホスピタリティ」を併記することで、その歴史を継承するとともに、本学園の存在価値を一層高めることを目的として、法人名を2027年4月1日付で「学校法人トラジャル ホスピタリティ学園」へ変更することについて、2025年11月21日開催の評議員会・理事会において決議を受けました。

その後、12月4日に寄附行為変更申請を東京都私学部へ提出し、2026年1月9日付で寄附行為変更の認可を得ました。

4. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表の状況

当年度末においては、資産の増加と負債の減少により純資産が 4 億 2,018 万円増加となりました。

- 1) 資産の部において、有形固定資産は実習室等の教室改修に伴う除却、および建物・教育研究用機器備品等の減価償却により減少しました。特定資産は繰入を行い、増加しました。流動資産は、現金預金、未収入金が増加しました。これらにより、資産の部は 3 億 2,065 万円増加しました。
- 2) 負債の部において、固定負債は退職給与引当金の繰入を行い、増加しました。流動負債は未払金、前受金が減少しました。これらにより、負債の部は 9,953 万円減少しました。
- 3) 純資産の部において、第 1 号基本金が増加し、翌年度繰越収支差額が 3 億 3,839 万円増加しました。

② 事業活動収支計算書の状況

事業活動収入計は 28 億 8,920 万円、予算比で 3 億 358 万円増加し、事業活動支出計は 24 億 6,902 万円、予算比で 6,856 万円増加しました。その結果、基本金組入前当年度収支差額は 4 億 2,018 万円、予算比で 2 億 3,502 万円の増加となりました。

《教育活動収支》

教育活動収入計は 26 億 325 万円、予算比で 1 億 2,135 万円増加し、教育活動支出計は 24 億 4,725 万円、予算比で 4,679 万円増加しました。その結果、教育活動収支差額は 1 億 5,600 万円、予算比で 7,455 万円増加しました。主な内訳は以下の通りです。

- 1) 学生生徒納付金は、進級者が予測数より増加したため 23 億 7,272 万円となり、予算比で 2,545 万円増加しました。
- 2) 手数料は、受験者数の減少により 1,885 万円となり、予算比で 197 万円減少しました。
- 3) 経常費等補助金は、「高等教育の修学支援新制度」(通称：授業料無償化制度)の対象者が予測より大幅に増加し、1 億 9,848 万円となり、予算比で 9,348 万円増加しました。
- 4) 雑収入は、保険解約返戻金もあり、1,029 万円となり、予算比で 277 万円増加しました。
- 5) 人件費は、教職員人数に大きな変更はなく、9 億 4,806 万円となり、予算比で 716 万円減少しました。
- 6) 教育研究経費・管理経費においては、修繕費は教室改修の費用が増加し、減価償却費は改修計画の中止等により減少しました。奨学費は上記 3) の通り対象

者が増加し、広報費は学生募集における媒体の見直しを行ったことにより合計 14 億 9,919 万円となり、予算比で 5,395 万円増加しました。

《教育活動外収支》

教育活動外収入計は 2 億 7,754 万円、予算比で 1 億 8,383 万円増加し、教育活動外支出はありませんでしたので、教育活動外収支差額は 2 億 7,754 万円となりました。

《経常収支差額》

上述の結果、経常収支差額は 4 億 3,354 万円、予算比で 2 億 5,838 万円増加しました。

《特別収支》

特別収入計は 840 万円、予算比で 159 万円減少し、特別支出計は土地の売却損および実習室の改修による除却費用などを計上したため 2,177 万円が発生した結果、特別収支差額は▲1,337 万円、予算比で 2,337 万円減少しました。

③ 収益事業の状況

ドミール City 東中野、ドミール City 東中野Ⅱ、の 2 棟の賃貸事業およびコーケン関内ビル跡地を駐車場として賃貸したものに關わるものです。

売上高は 9,994 万円、販売費及び一般管理費は 4,635 万円、営業外収益は 26 万円となりました。その結果、経常利益は 5,386 万円となりました。

(2) 主な財務比率比較

(%)

比率名	算 式	2025年度	全国平均※3	比較した場合
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{経常収入}}$	82.4	75.1	—
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	32.9	42.6	低い方が良い
教育研究・管理経費比率	$\frac{\text{教育研究(管理)経費}}{\text{経常収入}}$	52.0	52.9	高い方が良い
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産 ※1}}$	8.4	19.1	低い方が良い
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金 ※2}}{\text{前受金}}$	553.4	294.6	高い方が良い

※1 純資産＝基本金＋繰越収支差額

※2 現金預金には特定資産を加算している。

※3 2023 年度数値（専修学校全国平均：「今日の私学財政」専修学校各種学校編参照）